

# 福まち かわら版

福祉のまち推進事業は、「住み慣れた地域で安心して、ずっと暮らしたい」というみんなの願いをみんなで支える事業です。

近年の社会環境、世帯状況の変化に伴い、地域における人間関係の希薄化が進み、コロナ禍においてさらに社会的孤立が大きな問題となっています。今まで以上に身近な地域での、見守りや支え合い活動が必要になってきています。

そのため、各連合町内会単位に設置されている地区福祉のまち推進センター（以下「地区福まち」）では、住民同士の支え合い活動を広げていくために、さまざまな取り組みを行っています。

## 福まち全体研修会を開催しました

### 「災害についての備えを改めて考える」一日となりました

令和5年8月23日（水）、札幌ガーデンパレスで地区福まち関係者・まちづくりセンター所長等52名の関係者にご参加いただき、「令和5年度中央区福祉のまち推進センター全体研修会」を開催しました。札幌市においては震度6弱の地震やブラックアウト（全域停電）を引き起こした胆振東部地震から5年目の節目の年にあたることから、地域での防災に対する備えを再確認していただくことを目的に、北見市にある日本赤十字北海道看護大学の看護薬理学領域・根本昌宏教授を講師として、「北海道の地域性をふまえた命を護り健康を保つ災害対策」をテーマに講話を行っていただきました。講話では、今後北海道で起こると考えられている、地震による被害についての説明や、「冬季における災害への備え」についてお話しして下さいました。災害時の避難生活で確認しなければならないこととして、トイレや災害食、就寝

環境があり、平時からこれらについて準備をしておくことの大切さを知ることができました。また、オホーツク管内の学校の授業で取り入れている災害訓練のお話では、子どもたちの目線や豊かな感性が、被災時に、高齢者や障がいのある方への対応に役立ったとのことでした。

参加された方からは「日常生活の中で、被災時の生活になった場合の訓練をしておく重要性を学んだ」、「避難所の現実が良く分かった。日頃から備えることの必要性を強く感じた。しかし喉元過ぎれば熱さ忘れるで難しいものがある。」「子ども目線で防災を考えられると気付けることもたくさんありますね。地域のつながりも、子ども目線を入れることができたら新しい発見があるかもしれません。」等の声がありました。

今後、地区の研修会等でご相談等がありましたら、情報提供していきたいと考えておりますので、お気軽にお声がけください。



▲説明がわかりやすいとの声を多くいただきました



根本 昌宏 教授  
日本赤十字北海道看護大学 看護薬理学領域



▲講師のお話を熱心に聞き入られていました